

豆の皮

イスラエル

昔むかし、あるところに貧しい男がいました。あんまり貧しくて、生きているのがいやになって、

「もうたくさんだ、死んでやろう。町の城壁から飛びおりにやろう」と思いました。

男は、残りのお金をはたいて、豆をいくらか買いました。それから、町の城壁に登って、腰をおろしました。

「まずこの豆を食べて、それから飛びおりにしよう」

男は、豆の皮を城壁から投げながら、豆をおおかた食べてしまいました。そして、

「さあ、飛びおるぞ」

といて、立ち上がりました。すると、城壁の下から声がしました。

「おおい、待ってるんだぞ。早く皮を投げてくれ」

それは、何も食べる物がない男の人で、豆の皮がふってくるのを待っているのです。貧しい男は思いました。

「豆の皮さえ満足に食えないやつがいるんだから、おれが飛びおるのはまだ早いな」
男は家に帰って行きました。

村上郁再話

資料『世界の民話18』小川超訳／ぎょうせい